

9. 心電図同期心プールシンチグラフィにおける sampling time の基礎的検討

島袋 国定 田口 正人 城野 和雄
 中條 政敬 吉村 広 坂田 博道
 米倉 隆治 宮路 紀昭 篠原 慎治
 (鹿児島大・放)
 岡田 淳徳 禰久 豊嗣 (同・放部)

心プールシンチグラフィの至適 sampling time (1 frame あたりの時間) を探究する目的で、心臓動態ファントムを用いて、まず理想曲線と理想値を求め、次いでマルチゲート法により、sampling time を 20, 30, 40 msec と設定した時の容積曲線と指標 (EF, ET, PER, PFR, TPE, TPF) とを比較検討した。

その結果、三者の中では 20 msec 時が最も理想値に近い値が得られ、かつ測定変動も最小であった。臨床応用に際しては sampling time の検討も必要と考えられ報告した。

10. 側副血行路を有する虚血性心疾患の負荷心筋 ECT による治療法の選択

古閑 幸則 古嶋 昭博 富田 潤一
 松野 泰治 吉岡 仙弥 広田 嘉久
 高橋 睦正 (熊本大・放)
 久木山清貴 泰江 弘文 (同・循内)

われわれは、側副血行路を有する労作性狭心症 12 例を対象に経期的な側副血行路機能の変遷を追求した。その結果 non-jeopardized collateral (non-JC) 例では冠動脈閉塞後、徐々にその機能が増大し、数年後には完全に虚血の消失をみる等著明な側副血行路機能の増大を示した。しかし、jeopardized collateral (JC) 例では虚血の改善は不良であり、側副血行路機能の限界を示した。また、JC 例 5 例に対し冠動脈再建術が施行されたが、ほとんど虚血を残さず良好な結果を示した。上記の事実より、non-JC 例では側副血行路の発達を期待する内科的治療が、JC 例では冠動脈再建術が適応と考えられた。

11. Duchenne 型筋ジストロフィー ^{133}Xe による呼吸機能の定量評価

富口 静二 (国療再春荘病院・放)
 吉岡 仙弥 古閑 幸則 下村 修
 富田 潤一 広田 嘉久 高橋 睦正
 (熊本大・放)
 直江 弘昭 (国療再春荘病院・内)

Duchenne 型筋ジストロフィー (以下 D.M.D.) 11 例につき ^{133}Xe による局所換気血流分布の定量的指標を健常例 5 例と比較検討した。V/V は下肺野で低い傾向を認め、Q/V は下肺野で減少および上肺野で増加を認めた。これは呼吸筋、特に横隔膜の障害による換気血流異常と考えられた。また肺からの ^{133}Xe のクリアランスの指標である平均通過時間 M.T.T. は全肺野で延長しており、M.T.T. は %VC と負の相関を認めた。これは呼吸筋障害による肺泡低換気のためと考えられた。しかし今後、心筋障害による肺循環への影響や胸廓の変形等、他の要素も加味し検討する必要があると思われる。

12. 肝、胆道シンチ上興味ある所見を呈した糖原病の 1 例

松野 泰治 富田 潤一 古閑 幸則
 吉岡 仙弥 広田 嘉久 高橋 睦正
 (熊本大・放)
 二口総一郎 (同・二外)
 遠藤 文夫 (同・小児)

17 歳女性の糖尿病 I 型に肝左葉の上方と下方に計 2 個の肝腫瘍を合併した症例を報告した。肝シンチグラム上、下方の腫瘍は、リング状の集積を示し、上方の腫瘍は、小円形の高い集積を呈した。胆道シンチグラムでは、下方の腫瘍は、RI の集積が著明で、排泄の遅延を認めたが、上方の腫瘍は周辺の肝と同程度の集積を示し、異常集積として認められなかった。このように、2 個の腫瘍は、RI 検査上、異なる所見を呈したが、手術による摘出標本と針生検では、どちらも腺腫で、組織学的相違は認められなかった。糖原病における肝腺腫の合併は、加齢とともに、合併頻度が高くなることが報告されている。